

この間（7月～12月）のできごと

5月29日～7月22日 企画展「地球と地図の大ロマン」を開催

「地図と測量の科学館」において、企画展「地球と地図の大ロマン」を開催した。

本企画展は2部構成で、「地球大ロマン」では地球誕生から現在に至るまでの様々な現象・様子を振り返り、今の地球を知る上で現在どのような調査・研究が行われているのかについて、「地図大ロマン」では古代における地図の始まりから近代の地図に至るまでの経過を様々な地図で紹介した。

7月5日 国土地理院研究評価委員会を開催

国土地理院は、関東地方測量部において、平成19年度第1回国土地理院研究評価委員会（委員長：大森博雄東京大学名誉教授）を開催した。

委員会では、平成16年度～20年度を計画期間とする「国土地理院研究開発五箇年計画」の中間評価及び平成20年度からの実施を計画している新規研究課題4課題の事前評価を受けた。

7月10日 1:30,000山岳集成図「剣・立山」を作成

国土地理院は、剣岳測量100年を記念して、1:30,000山岳集成図「剣・立山」を作成した。

今年は、1907年（明治40年）7月に国土地理院の前身である陸地測量部の柴崎芳太郎測量官らが、三角点を設置するため剣岳に登頂してから100年という節目の年にあたる。

7月15～20日 ケンブリッジ会議2007に出席

英国において開催されたケンブリッジ会議2007（世界国土地理院長会議）へ、藤本院長他3名が出席した。

英国陸地測量部が主催し、4年に一度開催される会議で、世界の国家測量地図作成機関の長等が一同に会し、今後取り組むべき技術的・行政的課題について討議・情報交換等を行った。

7月・8月 平成19年（2007年）新潟県中越沖地震に対する対応

国土地理院は、新潟県中越沖地震（発生：7月16日10時13分頃M6.8）への対応として、10時18分に災害対策本部を設置し、電子基準点や人工衛星を用いた地殻変動の解析、被害状況調査や水準測量、被災地周辺の空中写真撮影、災害応急対応や復旧活動を支援するための各種地図や空中写

真、正射写真図等の関係機関への配布を実施した。

また、ホームページに地震関連情報を一覧できる特設ページを開設し、関連する情報を随時公表した。

7月19日 社会実験のためのSVG形式による電子国土データを配信

国土地理院は、公募型官民共同研究「SVGコンテンツを利用した電子国土の実用的な普及戦略に関する研究」の研究成果として、電子国土背景地図を元に Scalable Vector Graphics (SVG) 形式の地図データを作成し、これを社会実験に用いることができるよう一般に公開した。

この社会実験により、携帯電話のようなモバイル機器上で、より詳細かつ高機能な地図を使用できるようになり、日常生活の中での電子地図利用に弾みをつける変革（イノベーション）の第一歩となることが期待される。

7月24日 平成18年度の優良測量業者を表彰

国土地理院は、測量の技術の向上及び円滑な事業の推進に資することを目的として、国土地理院が発注した請負測量作業で、特に優れた成績を収めた測量業者を表彰した。

この表彰により、技術力が磨かれ、測量成果の一層の品質向上につながる事が期待される。

7月26・27日 地図・みち・海のフェア2007を開催

広島市の紙屋町地下街シャレオ中央広場において、地図・みち・海のフェア2007（主催：地図・みち・海のフェア2007実行委員会）が開催された。

中国地方測量部は、広島市の変遷を地図で紹介した他、触地図や余色立体図、また南極昭和基地付近の地図を展示紹介した。

期間中、会場には約2,000名の入場者があった。

7月27日 第42回海岸昇降検知センター総会を開催

関東地方測量部において、第42回海岸昇降検知センター総会を開催した。

本総会では、海上保安庁海洋情報部、気象庁、国土交通省港湾局、国土地理院及び海岸昇降検知センター事務局から、平成18年度事業報告及び平成19年度実施計画の説明・提案が行われ、審議・承認された。

7月27日～29日 サイエンス・イン秋葉原に参加

TX 秋葉原駅改札フロアにおいて、サイエンス・イン秋葉原（主催：首都圏新都市鉄道（株））が開催された。

国土地理院は、6m四方の余色立体図等、地図の楽しさや「地図と測量の科学館」を紹介する展示を行った。

期間中、会場には5,100名の入場者があった。

7月29日 大規模津波防災総合訓練に参加

宮城県気仙沼市において、大規模津波防災総合訓練（主催：国土交通省）が開催され、国土地理院からは藤本院長他10名が参加した。

本訓練は、宮城県沖の地震や日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震による津波を想定したもので、参加関係機関は60機関にも及んだ。

7月30日 第3回測量行政懇談会を開催

国土地理院は、関東地方測量部において、第3回測量行政懇談会（委員長：中村英夫武蔵工業大学学長）を開催した。

懇談会では、①基本測量長期計画の見直しをはじめ測量行政に係る基本的な事項、②ITの進展などにともなう測量技術者の資格制度のあり方等に係る事項、③測量法改正に伴う複製承認の実運用等デジタル時代の測量成果の公開・流通の在り方等に係る事項、に関する検討の重要性及び緊急性を踏まえ、それぞれ①測量行政基本政策部会、②測量資格制度部会、③測量成果活用部会の三つの部会を設置して並行して検討を進めていくことが了承された。

7月31日～9月24日 企画展「続・地図記号わくわく大図鑑」を開催

「地図と測量の科学館」において、企画展「続・地図記号わくわく大図鑑」を開催した。

昨年度に引き続き、2万5千分1地形図の地図記号の全て（161種類）、地図記号のデザインの由来や移り変わりなどを地図、写真、実物等によって紹介した。

8月1～3日 平成19年度科学大好き児童生徒育成事業「ミニ博士コース」を開催

茨城県教育委員会主催によるミニ博士コースが、各研究機関等を会場として実施された。

国土地理院では、「地図ができるまで」をテーマとし、5名の中学生を受け入れ測量・地図作成に関する講義や実習を行った。

8月4～9日 国際地図学会議（ICC）に出席

ロシア連邦モスクワ市で開催された第23回国際地図学会議へ、小荒井地理情報解析研究室長を派遣した。

本会議では、地図学に関する研究発表と国際地図展が開催され、国土地理院からは「地震被害と土地条件図の地形情報との関係についてのGIS解析」というタイトルで研究成果を発表した。

8月20日 第174回地震予知連絡会を開催

関東地方測量部において、第174回地震予知連絡会を開催した。

本会議では、第1回今後の活動展開の検討ワーキンググループの報告後、平成19年（2007年）新潟県中越沖地震、全国の地震活動、全国の地殻変動などに関する観測・研究成果の報告と議論が行われた。

8月21日～30日 第9回国連地名標準化会議に出席

第9回国連地名標準化会議がアメリカ・ニューヨーク市で開催され、国土地理院から稲葉測図部長が出席した。

今回の会議には、約80の国および国際機関から約200名が集まり、各国から提出されたレポートの発表と質疑応答が行われ、決議及び報告書が取りまとめられた。

8月22・23日 夏休みこども見学デーに参加

国土地理院は、文部科学省の主唱する「子ども見学デー」関連行事の一つである国土交通省「子ども霞ヶ関見学デー」に、関東地方余色立体図を床展示した。

8月29日 地理空間情報活用推進基本法と法に基づく省令・告示の施行

地理情報システム（GIS）と衛星測位に関する施策の推進による地理空間情報を高度に活用する社会の実現を目的とした「地理空間情報活用推進基本法」が、議員立法により平成19年5月23日に成立、5月30日に公布、8月29日に施行された。

また、地理空間情報活用推進基本法施行日と同日に、「基盤地図情報の項目及びその位置情報が満たすべき基準に関する国土交通省令」、並びに「基盤地図情報の整備に係る技術上の基準（告示）」も公布、施行された。

8月29日 平成20年度予算概算要求を提出

国土交通省は、8月29日に平成20年度予算の概算要求を財務省に提出した。国土地理院の要求

額は、約 130.4 億円。

国土地理院では、「第六次基本測量長期計画（平成 16 年度～平成 25 年度）」の目標達成に必要な経費を要求した。

8 月 30 日～9 月 4 日 国土地理院防災訓練を実施

国土地理院は、「防災週間」行事の一環として、政府・本省と連動した防災訓練の他に、首都直下型地震を想定したロールプレイング方式による訓練を行った。また、地方測量部、支所、観測所においても管内関係機関と連携した訓練を行った。

9 月 1 日 硫黄島（いおうとう）の 2 万 5 千分 1 地形図を刊行

国土地理院は、硫黄島の呼称変更に伴い図名（よみがな）を変更した 2 万 5 千分 1 地形図「硫黄島（いおうとう）」、「北硫黄島（きたいおうとう）」、「南硫黄島（みなみいおうとう）」の 3 面を刊行した。

9 月 5 日 国土地理院防災講演会を実施

国土地理院は、職員の防災意識の高揚及び防災知識の普及・啓発のため、NPO 法人環境防災総合政策研究機構事務局長・理事の松尾一郎氏を講師に迎え、「新たな時代の防災・減災を考える～連携・情報・次世代～」と題し講演会を実施した。

9 月 6 日 北海道サロベツ地区の環境ベースマップを作成

国土地理院は、北海道北部のサロベツ地区について実施した湖沼湿原調査の成果を、環境ベースマップとしてとりまとめた。

この調査により、サロベツ原野とペンケ沼（とう）・パンケ沼（とう）及びその周辺地域の地形、土地利用の変化等の詳細が明らかになった。この中で、およそ 1956 年からの約 40 年間に、サロベツ地区の湿地の面積が約 75% 減少していることが分かった。

9 月 14～16 日 地図で見る四国八十八箇所の今昔（讃岐編）を開催

高松市市民文化センターにおいて、地図で見る四国八十八箇所の今昔（讃岐編）が開催された。

四国地方測量部は、讃岐地方（香川県内）における遍路道をその地域の変遷が一目でわかるよう地図や写真を用いて紹介した。

また、会場内には地図記号クイズや距離あてクイズを体験するコーナーを設け、期間中、会場には 842 名の入場者があった。

9 月 20 日 第 34 回日韓測地・地図協力会議に出席

韓国の韓国建設交通部国土地理情報院において、第 34 回日韓測地・地図協力会議が開催され、日本側代表として小出企画部長他 3 名、韓国側代表として史載光（サ・ジェクワン）測地課長他 3 名が出席した。

本会議では、①2006 年度に実施した測地・地図作成及び地理情報に関する協力、②両国における 2007 年度事業概要、③測地・地図作成及び地理情報に係る事業及び技術に関する情報交換、④2007 年度に実施する測地・地図作成及び地理情報に関する協力、⑤測地・地図作成及び地理情報に係る両国間の将来計画等の議題について、報告、質疑応答、意見交換が行われた。

10 月 2 日 人工衛星データの解析により平成 19 年（2007 年）新潟県中越沖地震に関連した地殻変動を新たに発見

国土地理院は、地球観測衛星「だいち」の合成開口レーダー（SAR）の干渉解析を行い、本震の震央から約 15km 離れた西山丘陵に帯状の隆起域があることを発見した。

10 月 2 日～11 月 15 日 企画展「第 8 回いばらき児童生徒地図作品展」を開催

「地図と測量の科学館」において、企画展「第 8 回いばらき児童生徒地図作品展」を開催した。

本企画展は、楽しみながら地理や地図を学習できる機会の充実を図ることを目的に開催している。

10 月 16 日 防災講演会「迫り来る巨大地震に備えて」を開催

中部地方測量部は、名古屋市東区東海テレビレピアホールにおいて、防災に関しての啓発普及の一環として、「迫り来る巨大地震に備えて～東海、東南海地震に対する最新の情報から防災を考える～」と題し、地域で防災業務を担っている方を対象に防災講演会を開催した。

講演会には、地域の防災リーダーや防災ボランティア、また行政機関の防災関係者等 344 名の聴講があった。

10 月 16 日 第 108 回火山噴火予知連絡会に出席

気象庁において、第 108 回火山噴火予知連絡会が開催され、村上地理地殻活動研究センター長他 8 名が出席した。

本会議では、参加した各機関から全国の火山活動に関する最新の観測結果が報告され、総合的な

検討が行われた。

国土地理院からは、GPS 連続観測結果を始めとして、全国の火山活動に関する観測の結果や、その解析した結果を報告した。

10月16・17日 平成19年度国土交通省国土技術研究会に参加

都市センターホテル（東京都千代田区）において、平成19年度国土交通省国土技術研究会（主催：国土交通省）が開催された。

国土地理院からは、自由課題（一般部門）1課題、ポスターセッション3課題を発表した。

10月18～21日 劔岳測量100年記念「地図展2007in富山」を開催

富山市の富山県民会館において、劔岳測量100年記念「地図展2007in富山」（主催：国土地理院及び測量・地図関係7団体）が開催された。

本地図展では、「地図で見て知る、富山の歴史」、「劔岳測量100年」、「郷土の測量家石黒信由と伊能忠敬」、「大地を測り、地図を描く」、「防災に役立つ地理情報」、「児童・生徒地図作品展」、「地図と遊ぼう」等のコーナーを設け、同時開催として、「地図教室」、「地図力検定試験」等を行った。

期間中、会場には約7,500名の入場者があった。

11月1日 2万5千分1都市圏活断層図を公表

国土地理院は、2万5千分1都市圏活断層図 庄内平野東縁断層帯とその周辺2面（「庄内北部」、「庄内南部」）、境峠―神谷断層帯とその周辺3面（「梓湖」、「塩尻」、「木曾駒高原」）を公表した。

都市圏活断層図は、空中写真の判読によって当該地区内の活断層を抽出し、既存の調査結果を参考にしながら、断層のずれの方向や詳細な位置などを2万5千分1地形図上にまとめたものである。

11月1日 電子基準点付属標の高精度な標高成果を公表

国土地理院は、全国に配置した電子基準点の付属標に高精度な標高値を与えるため、近傍の水準点から付属標に直接水準測量による取り付け測量を行っている。今回、電子基準点1,233点のうち、これまでに取り付け測量が行われた452点の電子基準点付属標の標高成果について、従来のcm単位から二等水準点相当のmm単位の標高値に改正して公表した。

11月1・2日 ISO/TC211 第25回総会に出席

中国・西安市で開催された国際標準化機構の地理情報に関する専門委員会（ISO/TC211）の第25

回総会へ、西城情報普及課長他1名を派遣した。

総会では、新業務項目として4項目が登録、また、国際規格案（DIS）として3項目が登録されることが決議された。ISO/TC211 内には各項目を検討するための作業グループが5つ設置されているが、今回、新たにユビキタス地理情報などを検討するための作業グループが設置された。

11月7日 東海機動観測基地及び周辺地域における防災訓練の実施と同基地の施設を公開

国土地理院は、東海地震を想定した地殻変動調査等の訓練を国土地理院東海機動観測基地（静岡県掛川市）とその周辺地域で実施した。また、東海地震に備えた機動観測の拠点として建設された同基地の一般公開を行った。

11月14日 第5回日中測量・地図協力会議を開催

中国国家測絵局（北京市）で開催された第5回日中測量・地図協力会議に、関参事官他3名を派遣した。

会議では、両機関の近年の重点業務等の紹介の後、今後の技術協力の具体的内容が討議され、これらについて推進する方向で基本的な合意が得られた。

11月17・18日 つくば科学フェスティバル2007に参加

つくばカピオにおいて、つくば科学フェスティバル2007（主催：つくば市等）が開催された。

国土地理院からは、「地図と遊ぼう」をテーマに日本列島地図一筆描きコーナー、クイズコーナーを出展した。

11月19日 第175回地震予知連絡会を開催

関東地方測量部において、第175回地震予知連絡会を開催した。

本会議では、トピックスとして「地震予知連絡会が実施してきた地域指定のレビュー」について報告と議論が行われた後、「地震予知連絡会 今後の活動展開の検討ワーキンググループ」の中間報告等があった。次に、全国の地震活動、地殻変動などに関する観測・研究成果の報告と議論が行われた。

11月19～23日 第5回火山都市国際会議島原大会に参加

長崎県島原市において、第5回火山都市国際会議島原大会が開催され、国土地理院は関参事官他

9名が参加した。

本大会は、世界37の国及び地域から約600人の研究者や防災関係者が参加し、各国の火山災害対策や最新の研究成果の発表をはじめ、小中高生による発表を行うなど、一般の参加者も非常に多い会議となった。

国土地理院は、関参事官が2000年有珠山噴火と危機管理について発表した他、展示ブースにおいて国土地理院の火山における防災業務を紹介した。

11月20日～12月27日 地球地図・樹木被覆率データ（試作版）を公開

国土地理院は、地球全体を対象とした地球地図・樹木被覆率データ（試作版）を、「地図と測量の科学館」において、フロア展示した。

地球地図・樹木被覆率データは、地球環境の現状を正確に表すために、各国の地図作成機関が協力して整備している地球地図の一項目で、地球上の樹木に覆われた地域を示したものである。

11月23日～12月24日 企画展「第9回地図屋さんの作品展」を開催

「地図と測量の科学館」において、企画展「第9回地図屋さんの作品展」を（社）日本地図調製業協会との共催で2年ぶりに開催した。

この企画展は、地図調製会社が独自に企画したものや、自治体等から受注した道路地図、旅行ガイド、管内図等各種地図や当協会が平成19年度に実施した「優秀地図技術者表彰」に出展した優れた地図を紹介した。

11月28日 第49次南極地域観測隊（夏隊）出発

国土地理院は、第49次日本南極地域観測隊（夏隊）の一員として、測地部の高畑調査専門職を派遣した。

高畑隊員は、南極での2ヶ月間に、ヒューカ他4地域において精密測地網測量、昭和基地他1地域においてGPS連続観測点保守を実施した他、氷床変動検出のためのGPS観測、人工衛星を利用した地形図作成のための対空標識設置等の作業を行った。

12月4日 国土地理院研究評価委員会を開催

国土地理院は、関東地方測量部において「平成19年度第2回国土地理院研究評価委員会」（委員長：大森博雄東京大学名誉教授）を開催した。

委員会では、平成21年度からの5年間を計画年度とする次期研究開発五箇年計画の策定方針（案）についての事前評価、平成18年度終了研究開発課題2課題の事後評価を受けた。

12月13日 地理空間情報プラットフォームの構築に関する共同研究を開始

国土交通省（国土技術政策総合研究所、国土地理院）と東京大学空間情報科学研究センターは、地理空間情報活用推進基本法が描く空間情報社会実現の第一歩として、地理空間情報プラットフォームの構築に関する共同研究を開始した。

12月15日～1月14日 「2008カレンダー展」を開催

「地図と測量の科学館」において、企画展「2008カレンダー展」を開催した。

本企画展は、主に地図会社が作成した地図等を用いた2008年版カレンダーを展示紹介するもので、24点を展示した。

12月24日 平成20年度政府予算案が決定

平成20年度政府予算案が閣議で決定され、国土地理院の平成20年度予算案総額は約122億円となった。

12月25日 第4回測量行政懇談会を開催

国土地理院は、関東地方測量部において、第4回測量行政懇談会（委員長：中村英夫武蔵工業大学学長）を開催した。

懇談会では、測量成果の活用に関する提言書について、また、測量行政基本政策部会及び測量資格制度部会における審議状況について議論が行われた。